

2011年10月30日日曜日礼拝メッセージ

クリスチャンプレイズチャーチ



【小さな子どもをとおしても栄光を受けられる神様(1)】

聖書:第二列王記5章1-4節/ 暗唱聖句: マタイ25:23

ジョンナムチヨル

説教者: 鄭南哲 牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! 一週間の間も主の平安で守られましたか。急に寒くなりましたので、風邪を引かないように気をつけながら元気に冬を迎えるみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。

〈本文の内容〉

“神様は問題の解決を私たちの近くに置かれる!”

小さいものへの秘密について最近、神様の御言葉をとおして深く考えさせられ、学ばされています。

第二列王記5章はみなさんもよくご存知のナアマン將軍の話です。

ナアマンはイスラエルではなくアラム王の軍隊將軍でした。1節で、ナアマン將軍について、アラムの王に重んじられ、尊敬されていた勇士だったと記録されています。1節だけではどんな理由なのかくわしく書かれていませんが、ナアマン將軍は神様を知りませんでした。神様は彼をとおしてアラムを救わせたと言われています。しかし、彼には一つの問題がありました。彼はツアラアトの患者だったのです。いまで言うとうんざり病を持っていたのです。

アラムのナアマン將軍は名誉と権力を持っていた人でした。王の信頼を得ていた者でした。アラムを戦争から救った將軍だったので民たちからも尊敬されたはず。金銭的にも豊かだったでしょう。のちに、彼がイスラエルの預言者であったエリシャに会いに行く時、多くの銀と金や晴れ着を持っていく様子をとおしても(第二列王記5:5節)十分考えられます。そんなナアマンでさえ人には知らせたくない、見せたくない大きな問題をかかえていました。

彼の力ではとうてい解決できない問題でした。今日の御言葉は彼の体がますます小さくなっていくうんざり病にかかっていたと伝えています。彼の華麗な勲章(くんしょう)の下に隠されている彼の肉体はくさくなり、膿(うみ)がたまって行く一方でした。彼はますます死に向かっていたのです。

愛する信仰の家族のみなさん!

人はだれでもいくつかの問題をかかえて生きています。我々が会っているすべての人々には言葉では言い表せない問題があるということをおぼえておかなければなりません。そういうわけで、すべての人に福音が必要であり、神様が必要なのです。すべての人に愛が必要とされ神様の助けが必要であることを信じますか。人生の問題を解決するカギが我々には必要です。ナアマン將軍をみてみてください。彼が持っている富も、勇敢も、彼の問題を助けることは何一つありませんでした。彼は無気力になり、死の日を待つしか何もできませんでした。その時、彼を助けてくれた人がいました。ナアマンの家で、彼の妻に仕えていた若いはしためでした。(2-3)

“アラムはかつて略奪に出た時、イスラエルの地から、ひとりの若い娘を捕らえて来ていた。彼女はナアマンの妻に仕えていたが、その女主人に言った。「もし、ご主人様がサマリヤにいる預言者のところに行かれたら、きっと、あの方がご主人様のツアラアトを直して下さるでしょう。」”

その後の結果がどうなったのかはうしろまで読んでみればわかると思います。このイスラエルの若いはしための話を聞いたナアマン將軍はイスラエルに行ってエリシャに会って、エリシャの言われる通りにヨルダン川に七回入ったことにより病気をなおされる奇跡を体験されます。この出来事とおしてアラムの地に神様の栄光が現されます。アラムの地にも神様の御業が述べ伝えられます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

したがって、問題の解決策は遠くにあるのではなく、我々の間近にあることを覚えなければなりません。我々は近くにあるもの、近くにいる人々をないがしろにする傾向があります。

慣れてるものを軽蔑し、無視する傾向があります。(妻、夫、教会の家族、子どもたちなど)しかし、神様は違います。神様は一番近くにある物の中に宝を置いてくださり、我々の近くにいる人々を通して我々の問題を解決して下さることを望んでおられる方です。ナアマン將軍の妻に仕えていた少女は何の力もない若い娘でした。しかし、そんな小さい女の子がナアマン將軍の大きななやみを解決してくれる人になります。人々がす

ぐ無視してしまいがちの小さいはしだめが良いお知らせを持っていたのです。愛するみなさん! 神様の奇跡と助けは遠くにありません。もしかするとみなさんの一番近くにあるかも知れません。祝福も、幸せも遠くにあるわけではありません。それも私たちのそばにあります。絶えずしきりに特別で、新しく、遠いところをみあげないでください。いま、神様がみなさんに許して下さった近いところをもう一度振り返って見て下さい。

神様が列王記5章でイスラエルでもないアラムの將軍である、ナアマンの話を記録された理由はなんでしょうか。

始めに、神様は小さい者をとおしてくすしい御業を成し遂げていかれる方だからです。

神様は小さい女を通してくすしい御業をなそうとします。

信仰の家族のみなさん、神様の御目(おんめ)に小さい人はいません。神様は小さいはしだめを通して働かれます。われわれみんながナアマン將軍になることは難しいかも知れません。我々みんなが神様の偉大な預言者エリシャのようになることは難しいかも知れません。しかし、我々は小さいはしだめにはなれます。小さいはしだめのように神様のすばたしい御業のために我々も用いられる神様の道具にはなれることを信じてください。アーメンですか?アーメン!

我々の教会も小さいですが、神様に大いに用いられることを信じてください。

二つ目に、いまいるところ、与えられたことを愛しましょう。

一度考えて見て下さい。ナアマン將軍の妻に仕えていた若い娘はイスラエルで生まれました。しかし、アラムの軍隊がやって来てこの幼い少女(しょうじょう)を捕虜(ほりよ)として捕まえてきました。突然家族と離れ、孤児のような身分になってしまいました。愛する親から離れ、だれも知らないアラムの地に来てしもべの生活をしています。いくらでも人生を恨む立場ではないでしょうか。

いくらでも人生を悲願しながら、無気力に過ごしたかも知れません。しかし、神様を信じていたこの小さい少女は違いました。自分の留まっていたところを愛しました。もちろんこの子は故郷を恋い慕っていたでしょう。しかし、自分の留まっているところで最善を尽しました。普段、彼女がそうだったので、ナアマンの妻とナアマン將軍がこの子の話しを信じてくれたのではないのでしょうか。

ですから愛するみなさん!

神様を信じる人はかならず神様の摂理があることを信じなければなりません。もう一度申し上げます。神様を信じている人は神様の摂理を信じなければなりません。どんなことでも偶然はなく、神様の摂理がある事実を信じましょう。そうするなら、これ以上いま自分たちに与えられている環境、人々、あるものに対してつぶやくのをやめ、与えられたことを愛していけます。そして、最善を尽す人生を送ることになります。生きておられる神様が我々をどこ導かれてもそこが我々がしばらく留まるべきところ。我々がそのところを愛し、そこで神様に栄光を帰するようにしていくべきです。そして、そこにこそ神様がともにおられることを信じなければなりません。

聖書のヨセフを考えて見て下さい。突然兄弟たちに裏切られ、父と故郷を離れエジプトの奴隷として連れられていきました。イスラエルからエジプトのポティファルという人の家でもべとして仕えるようになります。彼の願っていたところが、彼の願っていた仕事ではありませんでした。彼の望んでいた人生ではありませんでした。それにもかかわらず、それにもかかわらず、ヨセフは自分の環境と状態をうらみませんでした。むしろ、自分の留まっていたところで愛し、最善を尽しました。彼が留まっているところを神様が祝福してくださるところとして仕えました。のちになって、ヨセフの一人によってポティファルの家庭まで祝福されます。

どなたか創世記39章5節を読んでくださいますか。

“主人が彼に、その家と全財産とを管理させた時から、主はヨセフのゆえに、このエジプト人の家を、祝福された。それで主の祝福が、家や野にある、全財産の上にあった。”

みなさん!

すぐすべてを変えようとしなくてください。全世界よ変われとも言わないでください。

まずみなさんが留まっているところ、与えられたみなさんのすべてを愛してください。我々がいるところだからこそ、そこが美しくなり、そこが変えられたら、我々はすでにすばらしいことを成し遂げたのです。

三つ目に、いまそばにいる人々を愛で仕えてください。

イスラエルの若い娘はナアマン將軍と妻に仕えるたびに敵としていやいやしながら仕える事もありえました。ナアマン將軍がハンセン病にかかったことも神様に罰として受けられたと思われたかも知れません。しかし、若いはしだめはそのように考えませんでした。自分がいるところを愛し、自分と一緒にいる人たちを愛をもって

仕えました。小さい女しもべは捕虜で、奴隷の身分だったので、恐れながら生活していたかも知れません。しかし、小さい女しもべは恐怖の中ではなく、愛の中で生活しました。もし、ナアマン将軍がエリシヤに会ってハンセン病を治してもらわなかったなら、女しもべは殺されたかも知れません。しかし、愛をもって仕えて来た主人だったので、彼の痛みをともにしながら死も恐れなくて、真心を持ってナアマン将軍のために助言(じょげん)をすることができたと思います。普段、この女しもべからこのような真実な様子がなかったなら、主人に認められることはともかく、だれも彼女の話を耳を傾けなかったと思います。

愛する信仰の家族のみなさん! いまみなさんの左右をみてみてください。前後ろをみてみてください。みなさんはいまそばにいる人々をイエス様のように愛を持って仕えていますか。もちろん難しいかも知れません。敵のような人を愛を持って仕える事は簡単ではありません。しかし、神様が我らのそばにその人を留ませたのであれば、それは決して偶然ではありません。もちろん我々のとなりにいる人と永遠に一緒に住まないかも知れません。しかし、そばにいる人々が決して偶然に現れたとは思わないで下さい。自分は愛されてない、愛してくれるようにと待たないで下さい。いまそばにいる一人、一人からまず愛を持って仕えて見て下さい。マザーテレサは自分が出会っている一人一人をキリストのように思って仕えたと言いました。

“我々には個人が大切です。一人を愛そうとしていると彼に会わなければなりません。しかし、人数が増えるまで我々が待っている間、数字の中で道を迷ってしまいます。その人に対する愛と尊敬も表せなくなります。私は一対一関係を大切に思っています。私には会っている一人一人がキリストのようです。イエス様は一人です、その人も同じくその瞬間だけはこの世では唯一の人になります。”みなさん! いまみなさんが留まっているところ、みなさんのそばにいる人々をもっと愛し、もっと愛によって仕える時神様の祝福が臨まれることを信じて下さい。

最後に、いまでできる小さい事とおして困っている隣人を助けてください。

今日小さい女しもべは自分のできるちいさいことをとおして困っているナアマン将軍を助けました。神様は我々ができないことをとおして働かれるのではなく、我々ができることをとおして働かれます。我々が知っていることをとおして働かれます。小さい女しもべはエリシヤを知っていました。エリシヤの神様を信じていました。エリシヤの神様の御力を知っていました。神様がエリシヤをおしてハンセン病も治されることをも信じていました。エリシヤがいまサマリヤにいることも知っていました。その事実をナアマン将軍の妻、自分の女主人に言ったのです。小さい女しもべがナアマン将軍に直接会って話すことは難しかったでしょうが、自分の仕えていた女主人に言うだけ言うのはそんなに難しいことではなかったでしょう。

第二列王記5章3節で、“その女主人に言った。「もし、ご主人様がサマリヤにいる預言者のところに行かれたら、きっと、あの方がご主人様のツアラアトを直してくださるでしょうに。」”

神様は我々にできないことを要求される方ではありません。我々にないことをささげと強要(きょうよう)される方ではありません。神様は我々のできる小さいこと、我々の持っている小さいものを通して働かれます。大したことのないと思われることをとおして働かれます。なぜなら、神様には些細なことはないからです。“神様にけって些細なことはありません。どんなことでも神様にささげれば無限のことになります。”

大切なのは我々のできるちいさいことに愛を込めることです。真心を込めることです。

そのとき、わずかなそれが時代の歴史を変えるほどの大きい力になれるからです。些細なことにつぶやいたり、腹を立てないように気をつけましょう。

“神様の愛のためにすべてを言う時、些細な事に腹を立たせてはならない。なぜなら、神様の関心は我らがやっているそれがどれだけ偉大で、大きいことなのかではなく、それをどれほど愛を持って仕えているのかに神様は関心を持っているからだ。”(ローレンス兄弟, Brother Lawrence)

【その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさん物を任せよう。主人の喜びをともに喜んくれ。』】(マタイの福音書25章23節)

愛する教会の家族のみなさん! 今年ももう二ヶ月しか残っていません。しかし、考えを切り替えれば、まだ二ヶ月も我々には残されています。いま偉大なことができないかも知れませんが、キリストの大きな愛を持って小さいことはできると信じます。いま自分たちに与えられていることをつまらないと思わないで、つぶやかないで、もっと愛を込めて仕える事から始めてみてください。

自分のそばにいる人々をやたらにしないでもっと愛を持って仕えてみて下さい。今日も小さい女しもべをおして御業を表して下さった神様が我々をおして神様の愛と奇跡と回復を体験させてくださることを我らの主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!